

令和6年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立馬込第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「体力テスト」「持久跳び月間」「短なわ跳び月間」において、使用するカードを統一し、学校全体で体力向上に向けて取り組んだことで、児童が自分の体力に目を向ける機会が多くなり、意欲的に体力づくりや体育学習に取り組むことができた。
- ・ボールやタグなどの運動用具を用意し、児童一人一人の活動時間を増やすことができた。運動用具が充実することにより、意欲関心の向上や運動量の確保につながった。

(2) 課題

- ・児童が日常的に運動に親しむために、運動用具の充実だけでなく、運動環境の整備、確保が必要である。
- ・苦手意識のある児童が楽しさを感じられるように、体育の学習では体を動かす時間を十分に確保する。また、用具や場を自ら選択するなど、課題に合った学習活動に取り組める個別最適化された学習を展開する。
- ・運動習慣の低下や運動が苦手な児童のためにも、体育の学習では体を動かすことの楽しさを感じさせるような授業計画を作成する。
- ・休み時間に積極的に外で体を動かして遊ぶ児童が、学年が上がるにつれ少なくなっている。教師の声掛けや「体育朝会」、「縄跳びカード（検定）」などの体力向上に向けた取り組みを通して、外遊びに向かう習慣を身に付けるようにする。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・多様な動きを身に付けられるように運動遊びや用具操作を多く取り入れる。	・様々な運動領域において学習カードを使用することで、児童が活動のねらいを理解し、その解決に向かって考えながら活動できるようにする。 ・タブレット端末を活用して自分や友達の動きを撮影することで、正しい運動の動きを理解することができる。	・よい動き（技能面、安全面、態度面、工夫、発言など）を評価し、クラス全体へ広げ、その共通理解を図る。 ・学習カード（日頃の授業で活用するカード、全校で統一された縄跳びカードなど）を使用し、休み時間や放課後、家庭等での運動につなげる。 ・運動遊びを多く取り入れ、運動の楽しさを味わわせるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・多様な運動を通して、動きのポイントを確認しながら、運動の技能を高める。 ・運動の種類に応じて多様な場を設定し、児童が個々の能力に合わせた動きを選べるようにする。	・児童同士で互いの動きを見合い、手本となる動きのよさや修正するポイントに気が付けるようにする。 ・学習カードを活用し、伸ばしたい力や改善したい動きについて考え、友達に伝えられる場を設定する。 ・身近な生活の健康に関する課題を見付ける。そのために、視覚的に有効な資料を提示する。	・運動の種類に応じて、多様な場を設定し、運動に対する興味を高めるようにする。 ・ゲーム領域では、児童の実態に応じて、ルールを変えながら運動の楽しさを体得できるようにする。 ・身近な生活の健康に関する課題を見付け、自分の生活と関係付けて考えることができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・運動・スポーツを簡易化した活動を通して動きのポイントを身に付け、意図的に体を動かせるような授業を展開する。 ・「できる」経験や達成感を味わわせる工夫をし、運動することや技能を身に付ける楽しさを感じられるようにする。 ・教師の声掛けや友達同士で教え合うことによって、動きのポイントやコツを理解できるようにする。	・様々な運動領域において学習カードを使用することで、学習のねらいを明確にし、伸ばしたい力や改善したい動きについて適切に考えることができる。 ・タブレット端末に各自で動きやポイントを記録することで、自己の変容を的確に把握できるようにする。 ・身近な生活における健康の課題を見付け、その解決のための方法を工夫することで、自分の生活と関係付けて考えることができる。	・よい動き（技能面、安全面、態度面、工夫、発言など）を評価し、クラス全体へ広げ、よさの共通理解を図る。 ・学習カード（日頃の授業で活用するカード、全校で統一された縄跳びカードなど）を使用するなど、児童が主体的に運動や体力づくりに取り組もうとする工夫をし、休み時間や放課後、家庭等での運動につながるようにする。 ・自分の課題に合った練習方法を選び、作戦を考えながら学習に取り組むようにする。